



PROFILE

平岡愛子 (鯖江市在住)
Aiko Hiraoka

洗足学園大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業。マリimba奏者として県内外で演奏活動を行うかたわら、マリimba教室の講師を務めるなど指導者としても活躍している。

「マリimbaが生まれる
この福井から
ハーモニーを広げたい」

木製の鍵盤をマレットと呼ばれるバチで叩いて演奏する打楽器「マリimba」。実は福井にゆかりの深い楽器で、越前町は日本一のシェアを誇る産地となっている。

そんなマリimbaの演奏者として福井を拠点に活躍しているのが、平岡愛子さん。県内外で演奏活動をしているが、後進の指導にも力を注ぐなど、幅広く活動を展開している。

子どもの頃から音楽が大好きだったという平岡さん。「小学生の時に木琴を弾いたのが楽しくて、

中学・高校では吹奏楽部に入って打楽器を担当していました」。

マリimbaに出会ったのは大学時代。「リズム楽器だけとメロディを奏でることができ、演奏のパフォーマンスも楽しんでもらえる。そんなマリimba独特の魅力に惹かれました。福井で作られている楽器だと知ってからは、ますます親しみを覚えましたね」。



練習中の子どもたちの表情は真剣そのもの。練習の成果は、地域のイベントなどさまざまな場所で発表している

大学を卒業すると福井に戻り、プロのマリimba奏者として演奏活動を開始した。

「福井で品質の高いマリimbaが製作されていることは、県内でも意外と知られていません。だから地元での演奏活動を通して、その魅力をもっと知ってもらいたいと思ったんです」。

全国、世界規模のコンクールで優秀な成績を修めながらも、平岡さんが福井での活動にこだわる理由はそこにある。一昨年の『国民文化祭・ふくい2005』の開・閉会式で演奏を行うなど、地元のイベントにも積極的に参加し、地域と一体となった活動を行っている。

また、指導者としても地域に根

ざした活動を展開。福井市内の高校で講師を務めるほか、越前町主催の『朝日マリimba教室』では、週に1度、小学生から50代まで幅広い年齢の受講者にレッスンを行っている。

「私が子どもの頃にはマリimbaを教わる場がありませんでした。この教室でマリimbaに親しんでもらい、演奏する人が少しでも増えてくれたら嬉しい」と話す平岡さん。生徒たちを前に奏でる音色は、やわらかさの中にもしっかりとした主張があり、心地よく胸に響く。その美しい響きで評判はじわじわと広がり、受講生は年々増えているという。

「私にとっては、世界を舞台に活躍

することよりも、マリimbaが作られているこの福井で活動続けることに意味があるんです。小規模なホールで息遣いを感じてもらえるような演奏をして、マリimbaをもっと身近に感じてほしいですね」。

地元で活動を始めて10年。平岡さんが心をこめて奏でるマリimbaの音色は、人と人をつなぎ、美しいハーモニーとなって広がり始めている。



豊富な種類があるマレット(バチ)。それぞれが異なった音を響かせる



教室ではクラシックからポップスまで、さまざまな曲を指導



国民文化祭の開会式では、ハーブ、パイプオルガンとのコラボレーションで観客を魅了